

(YouTube-This is Milk Source より)

ウイスコンシン州に 1950 年には 140,000 戸の酪農家でしたが現在 13,000 戸に減少しています。世界の人口は 1950 年代は 25 億人でしたが、2011-2012 年頃に 7 億人を越えたと推計されています。2050 年には 9 億人に達しその後も世界の人口は出生率が上がるのではなく寿命が延びることによって増え続け、計算方法の違いによる差はありますが 2100 年には 110-120 億人になると推計されています。この農場では将来の食料確保という意味でも規模拡大をしているとのこと

【従業員給与と雇用の考え方、手厚い福利厚生について紹介します】

基本的な従業員一人あたりの基準飼養頭数は経産牛は 100 頭で、一年目は搾乳からスタートし二年目から他の作業に配置される。実力主義で優秀な従業員であれば 10 年で牧場長としてトップになることができる。

初任給は平均で 35,000 ドル (425 万円)、有給休暇が初年度で 7 日間、その後増えていき 11 年目で 60 日間あり強制的に取らなければならないそうです。ボーナスもあり毎年 2 月にオーナー 3 人が集まり収支をみて決め、初年度のボーナスは 8,000 ドル (92 万円) で多い人は 2 万ドルとか。

やる気のある従業員はたくさん昇給し年収の最高額が 20 万ドル (2,300 万円)、従業員に対し感謝し手厚い待遇を提供するということが長期間働いてくれることにつながり、ひいては牛群の安定に結びつくということですね。実際にこの金額を聞いて驚きですが、乳価が日本の半分以下ですので、日本で同じ給与を払うとこの二倍以上になります。アメリカでの酪農場で働く人たちの給与は想像以上に高給なのが実体です。日本の酪農場でもそうあって欲しいと思います。

またマネージャークラスの従業員は毎年二回農場を離れてオーナー達と話し合う機会を持っています。それはゴルフであったり、釣りであったり、日常を離れて環境を変えて本音を言わせるのが目的のようでした。人心の掌握術はどの国でも同じようです。

先日栃木県那須塩原市でカラードプラの研修会があり、太田授精師と参加してきました。その時に栃木県で活躍されている THMS の卒業生？の懐かしい 2 人が仕事が終わってから那須塩原市までに会いに来てくれました。森先生とは約 10 年振りの再会でしたが獣医師の奥様と二人で頑張っているとのこと。寺内先生は第二子ご懐妊とか…別な意味で頑張っていました。栃木県は個人開業の獣医師が多いそうで、上手に棲み分けて徐々に世代交代されている印象でした。

【寺内(左)、森(右)の両先生】



.....  
・アメリカの大規模農場の報告はいかがでしたか？優秀な従業員の確保は世界共通の問題のようですが、Milk Source Rosendale Dairy の様な待遇なら誰でも働きたくなくなってしまいそうですね。紹介しました数字は本当ですし、有給休暇は週休二日の他にという意味です。組織は人なりといいますが THMS も見習って優秀な獣医師、授精師が集まってくるような組織にならなければと思います。

30.2.12.Y